

令和8年度都立南平高校における教科指導の重点

重点科目	重点課題	取組	発展的取組
国語	「読解力」「記述力」を高め、「対話的な学び」を深める指導の充実	・教科会で何を読み解くのか(主張・構造・根拠など)、何を表現させるのか(感想・意見など)等の共有と、指導目的を明確化する。 ・科目担当打合せや教科会で、実践内容を報告・共有する場を定期的に設ける。	・小説・説明文・科学記事など幅広く読み、辞書などを用いて語彙力を高めさせる。 ・授業で扱った文章に対し、自分の見解や感想を論理的に記述させる。 ・ペアやグループで読み解き、プロセスを言語化・共有することで対話的な学びを実践する。
地理歴史	社会的事象を地理的・歴史的な視点から考察する力の養成	・年度当初の教科会において、年間計画や指導方法を報告・共有 ・授業や単元ごとに自分の考えを文章化して表現する取り組みの実施	・定期考査等における論述問題の出題 ・学習内容を整理し、まとめる内容のレポートの提出等を行う。 ・学期中の教科会で、各科目での取り組みなどを報告・共有
公民	主権者として、社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を図る力の養成	・年度当初の教科会において、年間計画や指導方法を報告・共有 ・授業や単元ごとに自分の考えを文章化して表現する取り組みの実施	・定期考査等における論述問題の出題 ・学習内容を整理し、まとめる内容のレポートの提出等を行う。 ・学期中の教科会で、各科目での取り組みなどを報告・共有
数学	・課題を見つけ、それを解決するための道筋を探していく力の育成	・年度当初の教科会において、年間計画や指導方法の確認・報告を行なう。 ・解答を導き出す際、論理的に考察することを重視した授業を実践する。	・模試分析会での成果・課題を授業計画に反映させる取り組み。 ・デジタル教科書を用いて、個別最適な学習ができるように指導する。 ・定期考査における記述問題、大学入試問題の出題。
理科	「科学的に探究する」指導の充実	探究的な観察・実験を実施。 ただ手順通りに確かめるのではなく、自分で問いを立てて、条件を工夫し、データから説明(結論)をつくり、次の問いにつなげる観察・実験を行っていく。	高大接続教育の実施。 東京薬科大学の教員に模擬授業を行ってもらったり、大学の見学を行ったりする。
保健体育	運動やスポーツの習慣化	・体カテストの分析 ・授業の補強運動として、全学年共通で体カトレーニングを3年間継続実施 ・「エンジョイスポーツプロジェクト」実施	・「エンジョイスポーツプロジェクト」を実施し、スポーツとさまざまな関わり方をする中で、楽しさや心地よさを味わい、実生活・実社会に生かす
音楽	音楽的な見方考え方を働かせ意図をもって表現する活動	知覚・感受した音楽を自己のイメージと関連付けて表現を工夫したり、そのイメージについて音や言葉で他者に伝える活動	・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚しそれらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える活動 ・音楽を形作っている要素および音楽に関する用語や記号について、音楽における働きと関わらせて理解する
美術	自己の感性を高め、作品を通じて創造すること	・みる人に訴えかける文化祭ポスターを制作する。 ・対象物の形を正確にとらえることを狙いとして、木炭デッサンを行う。 ・石塑粘土を使用し、身近に存在する対象物(野菜や果物)を観察して制作する。 ・対比をテーマに写真撮影を試み、イメージを絵画化する。 ・人間にとって美術とは何か、その役割を美術史から学習する。	・デザインが人間に訴えかける、本質について理解を深める。 ・石塑粘土にアクリル絵具で着色し、物質の質感を表現する。 ・色彩の持つ性格を色相、明度、彩度等から認識し、確認する。 ・美術史を通じて、美術が宗教や生活とどのように関わってきたのかについて学習する。
書道	書写での学習を基盤にして書に挑む活動をする。	・「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」の3つの分野を芸術としての書として学べるように教材開発。 ・様々な古典、名筆に触れ、自己表現できるように教材開発をする。	・「鑑賞」「臨書」「創作」と学習をすすめる。 ・生活の中での「書」を生かせるように取り組む。
英語	「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」の指導の充実	・年度当初の教科会において、年間指導計画や指導方法の確認と共有を図る。 ・「読む・書く」の技能においては、文法・文構造の知識を身につけさせ、長文を読んだり自分の意見を表現したりする取組を行う。 ・「聞く・話す」技能においては、双方向のやり取りと考えを述べる取り組みを行う。	4技能を伸ばすために長期休業を利用して特別講習を実施する。英語検定受験の取り組みを援助する。
家庭基礎	将来自立した生活ができるようにする。自分だけでなく、家族や職場、友人、地域の中で思いやりを持ち、自分が何かをしなければならないと自覚を持ち行動ができる。社会問題を把握し、問題解決のため自覚と責任を持ちリーダーとして行動できる。	衣食住の生活を中心として、生活設計、少子高齢社会を生きながら年金や介護保険、どんな家族を作りたいか、子育てや消費行動から環境問題まで基本的な内容を把握し、知識を深めたものを活用でき、応用できる力を身に付ける。	生活していく中で出てきた問題に対して思考力をもって解決ができる。よりよく生活するために調べたり考えたりして、実践して解決できる能力を身に付ける。他者と共有でき、さらに応用的に活用する能力を身に付ける。
情報	問題解決を解決するための協働実習の充実	・教科書選定時に問題を解決するための実習を多く掲載しているものを選定 ・グループワークを多く取り入れ、協働して問題を解決できるように実習を実施 ・家庭学習できるように、スマートスクール端末を活用	・得意な生徒のために、発展的な課題を用意 ・他教科の学習内容と連携した授業を実施(例:数学の相関関係など)